

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞

(日報：平成24年6月8日 午後3時現在)

平成24年6月8日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（廃止）

- 平成23年3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成23年3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- 平成23年12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約 $3.4\text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約 $1.7\text{m}^3/\text{時}$ です。
- 平成23年4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成23年11月30日午後4時4分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成23年12月19日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。

2号機（廃止）

- 平成23年3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- 平成23年3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- 平成23年9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約 $2.8\text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約 $6.1\text{m}^3/\text{時}$ です。
- 平成23年5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成24年6月8日午前10時14分頃、使用済燃料プール代替冷却系において、「一次系ポンプ（A）吸込圧力低」の警報が発生したため、一次系ポンプ（A）を手動停止（停止時 プール水温度： 24.4°C ）。現場を確認したところ、当該系統からの漏えいおよび、吸込ストレーナの詰まり等の兆候が確認されなかったため、午前11時32分、同ポンプを再起動し、使用済燃料プールの冷却を再開しました（再開時 プール水温度： 24.5°C ）。なお、警報が発生した原因は、使用済燃料プールのイオン交換装置の樹脂交換後の水張り作業を行ったことにより、一時的に流量が変動し、ポンプの吸込圧力が低下したものと推定しました。
- 平成23年6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成23年10月28日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- 平成24年6月6日、原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施しました。分析の結果、当該システム入口でキセノン135が検出限界値（ $9.7 \times 10^{-2}\text{Bq}/\text{cm}^3$ ）未満であり、再臨界判定基準である $1\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えていないことを確認しました。
- 平成23年12月1日午前10時46分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。

3号機（廃止）

- 平成23年3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成23年3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。

- 平成 23 年 9 月 1 日午後 2 時 58 分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約 2.9m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約 5 m³/時です。
- 平成 23 年 6 月 30 日午後 7 時 47 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 7 月 14 日午後 8 時 1 分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成 23 年 11 月 30 日午後 4 時 26 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成 24 年 3 月 14 日午後 7 時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- 平成 24 年 4 月 11 日午後 2 時 47 分、使用済燃料プール塩分除去装置について、本格運転を開始しました。

4号機（廃止）

- 平成 23 年 3 月 15 日午前 6 時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋 5 階屋根付近に損傷を確認しました。
- 平成 23 年 7 月 31 日午後 0 時 44 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。(平成 24 年 6 月 7 日午後 2 時 18 分から午後 4 時まで、ヒドラジン [腐食防止剤] を併せて注入実施) 今後、各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施します。
- 平成 23 年 11 月 29 日午前 10 時 58 分、使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- 平成 24 年 4 月 27 日午後 4 時 3 分、原子炉ウェルおよび使用済燃料プールの塩分除去を目的として新たに設置した塩分除去装置（モバイルRO装置）の運転を開始しました。

5号機（定期検査で停止中）

- 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- 平成 23 年 3 月 19 日午前 5 時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- 平成 23 年 7 月 15 日午後 2 時 45 分、残留熱除去海水系ポンプ(B系)による残留熱除去系(B系)の運転を開始しました。
- 平成 23 年 12 月 22 日午前 11 時 25 分、補機冷却海水系ポンプ(B系)による補機冷却海水系(B系)の運転を開始しました。
- 平成 24 年 5 月 29 日午前 10 時 33 分、これまで機器ハッチを開口することにより行っていた原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器内より直接行うため、震災以降停止していた原子炉格納容器排気ファンを起動しました。
- 平成 24 年 6 月 1 日午前 10 時 30 分、原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器排気ファンによる連続運転を開始しました。

6号機（定期検査で停止中）

- 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- 平成 23 年 3 月 19 日午後 10 時 14 分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- 平成 23 年 9 月 15 日午後 2 時 33 分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- 平成 24 年 5 月 18 日午後 2 時 12 分、原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器排気ファンによる連続運転を開始しました。

その他

- 平成 23 年 6 月 13 日午前 10 時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- 平成 23 年 6 月 17 日午後 8 時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月 2 日午後 6 時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを經由して原子炉へ注水する循環

- 平成 23 年 8 月 19 日午後 7 時 41 分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- 平成 23 年 10 月 7 日午後 2 時 6 分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6 号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、平成 23 年 10 月 28 日、1～4 号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- 平成 23 年 12 月 13 日午後 0 時 25 分、淡水化装置（逆浸透膜式）において、淡水化処理後の濃縮水発生量の抑制を目的とした、再循環運転による運用を開始しました。
- 平成 24 年 5 月 27 日午後 2 時 34 分、2 号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）へ溜まり水の移送を開始しました。
- 平成 24 年 5 月 27 日午前 4 時 1 分、3 号機使用済燃料プールの塩分除去装置にて警報が発生し、塩分除去装置が自動停止しました。現場を確認したところ、停止による水の漏えい等は発生しておらず、使用済燃料プール冷却系は停止していません。停止した原因については現在調査中です。
- 平成 24 年 6 月 3 日午前 10 時 15 分から 6 月 7 日午前 8 時 25 分まで、3 号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）へ溜まり水の移送を実施しました。
- 平成 24 年 6 月 4 日午後 8 時 3 分に 4 号機使用済燃料プール代替冷却系において、「エアフィンクーラ盤異常」の警報が発生し、二次系の循環ポンプ（A）が過負荷トリップしていることを確認しました。現場確認の結果、ポンプモーター端子箱付近に焦げ痕を確認したことから、同日午後 9 時 27 分、富岡消防署（楢葉分署）に連絡しました。その後、同日午後 11 時 30 分、消防署から「火災ではない」との判断をいただいております。なお、4 号機使用済燃料プール代替冷却系については、同日午後 8 時 27 分、二次系の循環ポンプ（B）を起動しており、プール水温に有意な変動はなく、冷却状態に問題はありません。
6 月 5 日午前 10 時 30 分、当該ポンプ（B）の状態確認を実施するため、同ポンプを一時的に停止しました。状態確認を実施したところ、端子接続部の施工が不十分であることが確認されたことから修正作業が必要と判断しました。今後、端子接続部の修正作業を実施後、同ポンプを再起動する予定です。同ポンプ停止中のプール水の温度上昇は約 0.3℃/時と考えており、プール水温管理上、問題はないと考えています。
6 月 6 日、同ポンプの端子接続部の修正作業が終了したことから、午後 6 時 16 分、同ポンプを再起動しました。起動時のプール水の温度は 42℃で、プール水温管理上も問題はありません。
- 平成 24 年 6 月 6 日午前 10 時 18 分から午後 5 時 5 分まで、集中廃棄物処理施設において、サイトバンカ建屋からプロセス主建屋へ溜まり水の移送を実施しました。
- 平成 24 年 6 月 6 日午後 2 時 30 分頃、2 号機増設廃棄物地下貯蔵建屋において、タンク類の状況確認を目的とした調査を行っていたところ、同建屋内の廃スラッジ貯蔵タンクおよび、廃樹脂貯蔵タンク周辺に水が溜まっていることを確認しました。溜まり水の量は全体で約 830m³と推定していますが、溜まり水は建屋内に留まっており、建屋外に水が流出する可能性はありません。なお、雰囲気線量率はタンク上部にて 0.03mSv/時程度であり、バックグラウンドと同等であるため、溜まり水は壁の貫通部から地下水ないしは雨水が流れ込んでいるものと推定しています。今後、あらためて現地確認を行い、止水処理を実施する予定です。
- 平成 24 年 6 月 7 日午前 10 時から午後 4 時まで、6 号機タービン建屋地下から仮設タンクへ溜まり水の移送を実施しました。
平成 24 年 6 月 8 日午前 10 時、6 号機タービン建屋地下から仮設タンクへ溜まり水の移送を開始しました。
- 平成 24 年 6 月 8 日午前 8 時 21 分、第二セシウム吸着装置において、フィルタの逆洗をするため、当該装置を一時停止しました。同日午後 0 時 5 分に同装置を起動し、定常流量（約 40m³/時）に到達しました。今後、フィルタの逆洗に伴う同装置の停止および起動を適宜実施します。

以上